



第38号 2021.3発行

くにたち中央図書館

イラスト: YA すたっふ ひーちゃん

令和3年度

YAすたっふを募集します!

YA (ヤングアダルト) は子どもと大人の間、13~18歳くらいの若者のことです。

YA (ワイエー) すたっふは、図書館ボランティアとして10代向けイベントの企画・運営やPOPづくりをしたり、お互いの好きな本を語り合ったりしています☆

令和2年度は、Zoomを使ってオンラインミーティングをしたり、ブラインドブックフェアの準備をしました。(活動の様子は図書館HPをチェックしてねー <https://www.library-kunitachi.jp/youngadult/>)

本が好きな人や図書館が好きな人、イベントの運営などに興味のある人、応募をお待ちしています!

まずは見学してみたい、という人も大歓迎です。

対象 市内在住、在学の中学生以上の10代の人

活動日 毎月1回程度。翌月の予定をみんなで相談

活動場所 中央図書館、北市民プラザ、Zoom

第1回活動日 5月16日(日) 10~12時

応募方法 中央図書館へ電話、または来館

問合せ・申込み 中央図書館 042-576-0161

~3.11から10年~

2011年3月11日におきた東日本大震災を覚えていますか。

もし震災のことを覚えていなくても、私たちは本を読んで、あの日何があったのかを知ることができます。また、今後起きるかもしれない災害について考え、被害を減らすための備えをすることもできます。

10年という節目のこの年、3.11に向き合ってみませんか。



なぜ父は3.11で亡くなったのか。その理由を知るため、著者は地震や津波の専門家に話を聞きに行きます。

『地震のはなしを聞きに行く 父はなぜ死んだのか』

(須藤文音・下河原幸恵: 著/偕成社/2013.3)



津波から守ったカルテを使い、震災で犠牲となった遺体を家族のもとに帰し続けている歯科医のドキュメンタリー。

『泥だらけのカルテ 家族のもとに遺体を帰しつづける歯科医が見たものは?』

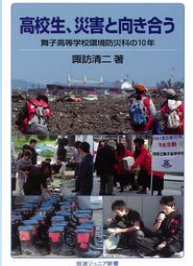
(柳原三佳: 著/講談社/2014.2)



3.11の被災者であることを隠して都内の高校に入学した梨乃は、福島で被災したという同級生、遠と吹奏楽部で一緒になります。

『この川のむこうに君がいる』

(濱野京子: 著/理論社/2018.11)



災害のニュースを見て、「自分にも何かできることはないかな」と考えたことがある人におすすめです。

『高校生、災害と向き合う 舞子高等学校環境防災科の10年』

(諏訪清二: 著/岩波書店/2011.11)

中央図書館YAコーナー 3月の特集棚
一橋大学サークル「チーム・えんのした」
presents

人前で読めない本



今月の特集棚は「チーム・えんのした」の皆さんが企画してくれました。大学生が人前で読めない本とは、どんな本なのか気になりますね。

クスっと？または大笑い？それともニヤニヤ？眉間にふか〜いシワがよってしまうのか？涙でぐずぐずになってしまうのか？

「チーム・えんのした」のメンバーが書いてくれた紹介文といっしょに展示しています。人前で読めない状況を想像しながら本を選んでみてください。



「チーム・えんのした」は、古本リユース事業などを通じて「本と人とをつなぐ」ことを目的に活動している一橋大学公認サークルです。



たかがウソコ、されどウソコ。
ウソコを紐解けば、日本の歴史や世界の課題が見えてくる！？

『ウソコはどこから来て、
どこへ行くのか』

～人糞地理学とははじめ～

(湯澤規子：著/筑摩書房/2020.10)



過剰な自意識と自己分裂を抱え、社会との関係を断って地下室に閉じこもった人間を、ドストエフスキーは近代に現れた人間累計の1つであると言い、読者の前に提示します。

それは近代が生み出した人間の姿であると同時に、私たちが意識の地下室に押し込めて表に出てこないようにしている私たち自身の姿でもあるでしょう。人前で彼の姿を見るのは勇気がいるかもしれません。

『地下室の手記』

(ドストエフスキー：著 安岡治子：訳/
光文社古典新訳文庫/2007.5)

NEW

YA掲示板ができました

YAのための掲示板ができたよ！

YA すたっふの皆が描いた「としせう」が散りばめられています☆

今後は、この掲示板でYA向けのイベントやYA すたっふの活動を紹介していきます。



中央図書館にあるよ♪



ケンタウロスの消化器はどこにある？

吸血鬼はどうして日に当たると灰になる？

真顔で読んでいたら正気を疑われそうな疑問を、生物学者が大真面目に解き明かす！

『ろくろ首の首はなぜ伸びるのか』

～遊ぶ生物学への招待～

(武村政春：著/新潮社/2005.12)



腐れ大学生が産み出すのはクスリとしてしまうような迷文の山！山！

笑っちゃって人前では読むことはできません。私もこんな手紙が書けるようになりたい、いや、なりたくない笑。

『恋文の技術』

(森見登美彦：著/ポプラ社/2009.3)